

【保土ヶ谷区】令和 7 年第 3 回区づくり推進横浜市会議員会議 議事録

開催日時	令和 7 年 9 月 5 日 午前 9 時 27 分 ～ 午前 10 時 24 分
場 所	保土ヶ谷区役所本館地下 地下会議室
出席者	<p>【座 長】 磯部 圭太 議員</p> <p>【議 員】 森 ひろたか 議員</p> <p>齊藤 伸一 議員</p> <p>青木 亮祐 議員</p> <p>関 嵩史 議員</p> <p>【保土ヶ谷区】 神部 浩 区長</p> <p>山本 実 副区長</p> <p>室山 孝子 福祉保健センター長</p> <p>半田 恒太郎 福祉保健センター担当部長</p> <p>長内 紀子 保土ヶ谷土木事務所長</p> <p>ほか関係職員</p>
議 題	<p>1 令和 6 年度保土ヶ谷区個性ある区づくり推進費等執行実績について</p> <p>2 令和 7 年度保土ヶ谷区個性ある区づくり推進費等執行状況について</p> <p>3 令和 8 年度保土ヶ谷区予算編成の考え方について</p> <p>4 その他</p>
発言の 要 旨	<p>議題 1 令和 6 年度保土ヶ谷区個性ある区づくり推進費等執行実績について</p> <p>森議員：</p> <p>信頼される区役所づくりの決算額が約 2000 万円であるが、これは本来区役所の運営に関わる場所であり、区づくり推進費に入れるのが本当に良いか疑問である。市民局予算の中でやるべきことではないかと私は認識しており、区からも局に対し声をあげていってほしい。</p> <p>神部区長：</p> <p>区役所サービスのための環境整備であり、庁舎整備にかかる経費となっているため、必要な経費に関しては市民局にもしっかりと要求をしていきたい。その上で 6 年度は、例えば個室型のベビーケアルームを区で導入した。これは市全体でというよりは、区役所独自に子育て世代の皆さんが安</p>

心して、これからも区役所をご利用いただけるための設備ということで取り組んだものである。その意味では区として行うべきもの、市として行うべきものというのを見極めた上で、必要なものは市民局にも要望していく。

森議員：

区民利用施設の修繕や維持に関して、毎年結構な経費がかかっており、これからも修繕の関連が徐々に増えてくだろうと認識している。区役所、公会堂、スポーツセンターや図書館も古くなってきており、今後 20 年以内に区内の多くの区民利用施設が一つの役割を終えるという時期を迎える。新たな場所に複合化して作っていくのか今の土地でやるのか分からないが、現状を踏まえれば、複合的な視点を持たないと時期を逸してしまうと思っている。しっかりと区役所内で議論をしていただきたい。

議題 2 令和 7 年度保土ヶ谷区個性ある区づくり推進費等執行状況について

(1) 区制 100 周年事業について

質疑なし

(2) 輝けシニア！2025 事業

質疑なし

(3) 地域におけるデジタル活用推進事業

斉藤議員：

徐々に自治会町内会でも広がりつつあると感じている。情報伝達ツールアプリ導入における補助金の上限は 3 万円で年度単位となっている。ずっと補助を行うということは現実的ではないものの、自治会町内会からすると、来年度はどうなるのかという不安を感じるのではないかな。

川瀬地域振興課長：

こちらの補助金は導入をするためのものであり、12 ヶ月分のみ最初に補助するものとなっているため、2 年目・3 年目という考えは今のところはない。最初に自治会の方にもご説明をした上で、申請をいただいているという状況である。

青木議員：

デジタルに精通をしている方がいる自治会町内会は、少しずつ進んでいるが、Wi-Fi 自体を分かっていない高齢者が多い自治会も多い状況である。そもそも Wi-Fi をまず導入することから始めてもらわなければ、活用までなかなかたどり着かないと思うがどうか。

川瀬地域振興課長：

高齢の方も多く、使い方もわからない方も多いため、担い手を増やすという意味でも自治会向け研修会などを私たちが出向いて行っている。ただし、どこまで我々の方で準備や補助をするべきか、まだ検討まではできていない状況にある。

青木議員：

補助金の申請数も少ないように思える。多くなってしまうと予算的に厳しいのかもしれないが、Wi-Fi を導入していない自治会町内会が多い現状について考えてほしい。

議題 3 令和 8 年度保土ヶ谷区予算編成の考え方について

斉藤議員：

今年度と昨年度を比べて何が足らなかったと認識しているか。また、今年度とどのような違いが出てくるととらえればよいか。

神部区長：

令和 8 年度の予算編成については、3 つの市政方針に加え、新しい中期計画がこれから市全体で議論されていくため、そうした動きにこちらも合わせていく。

また、2 年後の 100 周年が保土ヶ谷区にとって節目の年であるにとらえており、そこに向けて様々な事業が動き出している。記念事業や式典などについては実行委員会の皆さんと検討をしていくが、節目に向けて何ができるかを考えていきたい。

加えて、今回から考え方の中に「もっといい保土ヶ谷」というワードを入れている。区民の皆さんと共に作り上げてきている事業が多い中で、それぞれの事業に必ず課題があると考えている。効率化を図ったり、区民の

みなさんへもっと役に立てるよう、課題をもとに解決策を区の中でしっかりと議論をしていきたい。

100 周年という節目とともに、各事業の見直しと市全体で取り組んでいる創造と転換に区としても取り組んでいく。

青木議員：

区の基本目標は「いつまでも住み続けたいまちほどがや」だが、人口減少で出生率が低い状態である限り、自然増ということは見込めない。住み続けたいと思っていただいても、区外から住みたいと思ってもらうようにしていかなければ、どんどん人口が減っていってしまう。外部からの人口の社会増もしっかりと目指すような保土ケ谷区にしていきたいため、重点目標の方に入れてもらいたいですが、どうか。

神部区長：

同様の課題意識を私も持っていて、2年前までは「いつまでも住み続けたいまちほどがや」を基本目標にしていたが、「いつまでも住み続けたいまちほどがやを未来へ」という言葉に変更をした。これまでいい活動をしてきた保土ケ谷区を未来につなげていくために、この100周年という大きな節目の年を迎え、何をすべきかを区民の皆さんと一緒に考えて取り組もうという思いも込めて、「未来へ」という言葉を入れている。今の事業の中では具体的に予算化されていないため、社会増を目指していくための取り組みも考えていかななくてはいけない。

今年の人口統計から保土ケ谷区は微増ではあるが、対前年度比で増加に転じている。これはこれまで区民の皆さんと一緒に取り組んできたまちづくりの中で西谷への相互乗り入れや星天の高架化などもあって、社会増が起きていることの現れだと思う。この機を捉えて指摘に応えられるように、これから予算編成の中で考えていきたいと思う。

森議員：

区づくり推進費の予算において、事業が固定化してしまっていることが大きな課題だと思う。市内でも人口減が進む中での微増ということで、これに拍車をかけていく上では新たな取り組みというものが必要と感じているが、どうか。

神部区長：

それぞれの事業で多くの区民の皆さんと一緒に進めてきた事業は素晴らしいものが多いと感じているが、一方で固定化している実情もある。山中市長からも市民目線で柔軟な事業の検討を求められており、今やることが本当に区民の皆さんにとって有益で喜ばれていることなのか、効果があるのかしっかりと見直していく必要があると感じている。

議題４ その他

斉藤議員：

８月６日の日中に星川・仏向町周辺で停電があり、暑い時間帯であったことから、区役所に確認したら公会堂を開放して、空調のある環境で過ごせると回答があり、ありがたかった。ただ、広報がXで行っただけであり、一番気にしなければならないご高齢の方や障害がある方には届きにくい手法だった。この暑さの中での停電は命に直結するため、広報車を活用するなど、広報のありようを考えていただきたい。

神部区長：

近隣の保育園が停電で困っているという情報が職員に入り、区役所を案内したケースも今回あった。

Xで広報はしたが、情報が届かないという方もいたと思う。今回の対応に関しては我々も学ぶことや改善すべき点があったため、広報車の活用やクールシェアスポットの周知啓発などの準備、あわせて冬場での対応・検討等を考えていきたい。

斉藤議員：

停電の原因についての情報はるか。

近藤総務課長：

原因は東京電力に確認しているが、はっきりとした回答は得られていない。出火原因は何らかの要因により高圧配電線の部分がショートしたということだが、その原因が高温によるものかなどは不明。現状で分かっているのは、ショートして出火した模様ということのみ。

森議員：

停電の話の中で、区長からも情報が届かなかったという答弁があった。地域のデジタル化を推進するにあたって多くの自治会が公式 LINE に変更していている状況だと思うが、区役所で LINE を通じた情報発信をなぜやらないのか。

森区政推進課長：

横浜市の LINE で区ごとの情報がもらいたい人は登録できるため、そこを通じて必要な情報は流しているが、区役所の情報を公式 LINE みたいなものを使ってもっと流していく取り組みをしないのか、ということかと思う。区役所としても政策経営局と独自の LINE を作っていいのかという議論は色々な場面でしているが、まだ煮詰まっていないところがある。引き続き、局とも相談して考えていきたい。

森議員：

自治会にデジタル化をやって欲しいなら、区役所自身がまずやるべきだと思う。区民の皆さんは市の LINE を見に行くよりも、自分が住んでいるところの情報を取りに行くのではないか。区のホームページもさまざま工夫はしているが、相当潜り込まないと、情報が取れないような仕組みになっている。例えば公式 LINE 等で必要な情報を出す、バナーの中で時々に必要な情報を載せるなどできないものか。そういうことをすれば、もしかすると、そこから情報を取って、自治会町内会にそのデータを流してもらうこともできるかもしれない。そういったツールをうまく使っていくことが必要だと思うため、ぜひ検討していただきたい。区役所独自でやるインスタが OK で LINE がダメという理屈はないと思っている。

斉藤議員：

横浜市の公式 LINE は頻繁に来る。私は仕事柄、他の区の広報が届いた際に参考に見るが、一般的に自分の区以外のものはあまり見ないのではないか。市は市としての役割、区は区としての役割があり、たくさんあっても複雑になる。自治会町内会でも回覧板の代わりに LINE を結構使っている例もある。人口 20 万を超える保土ヶ谷区には、LINE は有効だと思われる。人口 377 万人の横浜市の LINE というのも、規模感からすると、情報の取捨選択が必要となるため区民が扱うには難しいと感じていることを、局

	<p>にも伝えてほしい。また、区としてのものを考えていただいた方がいいと思う。</p> <p>森議員：</p> <p>星川橋が一方通行化になって、安全確保されたが、ラバーポールと三角コーンの部分に分かれている。ラバーポールの方が、安全性が確保できると思うが、どうか。</p> <p>吉岡土木副所長：</p> <p>先行して、一方通行化するにあたって、まず既存の橋の部分の上の部分舗装して、ラバーポールを立てたが、コーナン側の歩道については歩行者部分を今後広げる工事予定となっている。現状では 9 月 15 日から今月末位に該当部分を広げて歩行者空間として整備をする。その上で、橋の上の緑の舗装のまだ残っている部分などを含め、今月中には完了する予定でいる。</p>
備 考	